

and var. *parvifolia*, should be recognized in *H. japonica*.

Helwingia japonica var. *japonica* is widely distributed from Kyushu to southern Hokkaido, but var. *parvifolia* is found in middle Honshu and southwest-wards (Fig. 4). Although generally occurring on hills and low mountains, this species seems to be calciphilous and often predominates in limestone areas.

○紫金草という名について (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: Of a Japanese name of *Orychophragmus violaceus* Schulz.

本年 (1966) は *Orychophragmus violaceus* O. E. Schulz. (オオアラセイトウ) に関する投書記事が、6-7 回同一新聞紙に出た。いづれも和名がいくつもあってまぎらわしくて困るので、どれが適切かということであったので、佐竹義輔博士が結論を下された一文もあった。これらの記事中に紫金草 (シキンソウ) という名が出てきて、これが耳あたらしい名として登場してきたと思うのは私だけであるまい。そこでこれを採たくし用いることの当否は別として、この草にこの名のできた由来を一応記録しておく。この名は元陸軍の薬剤官であった薬学博士黒田辰一郎氏が昭和 14 年 (1939) 3 月、支那事変中当時陸軍衛生廠材料廠長であった山口誠太郎博士と、南京の紫金山のふもとで、この草の満開時に会い、あまりに美しいので、このたねをもち帰り、廠員に分配したのがもとになって、世田谷区およびその周辺すなはち中野、杉並、大田地区に拡ったものと、山口氏の故郷茨城県石岡市に伝わって今日に至ったものがあるというのが、黒田氏の実話である。したがって紫金草の名は同氏が紫金山にちなんで命名し、氏のもち帰ったものの子孫が、上記諸地区に現存するものが先祖になったというのである。すでに沢山の漢名や中国名のほか、いろいろの和名が与えられているこの草に、また一つ紫金草なる名称が黒田氏により加えられたことになる。もっともこの草は日本へはその他の人によっても伝えられた事実もあり、これを伝えた人の氏名もわかっているが、その人は直接植物に関係のない人だから、あえて記さないことにして、紫金草の由来だけを記すにとどめる。

(東邦大学薬学部)

正 誤 (Errata)

(頁 Page)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
339	17	smächtiger	schmächtiger
"	30	flola	flora
346	12	Spore	Sporne
349	10	Torri	Torii